

臨嶺会会報

第38号

2017年春発行



目次

特集	開校50周年	…… 1～2
追悼	田口八郎先生	…… 3
	丸山雄造先生	…… 4
カミングホーム		…… 5～6
	短大11回生	
	短大13回生	
	保1期生	
退職される教員／新任教員		…… 7
	高昌星先生	
	平千明先生	
臨嶺会会員の近況報告		…… 8～21
事務局からのおしらせ		…… 22
卒業生の進路		
2016年のできごと		…… 23
編集後記		

検査技師養成50周年

[1966-2016]



会長 奥村伸生教授

信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻は昭和41年に衛生検査技師学校を開校して50年を迎え、在校生と卒業生で作る臨嶺会（会長 奥村伸生教授）の会員約80人が9月10日、同校舎で祝った。同校は平成14年に四年制の大学となったが、衛生検査技師学校、臨床検査技師学校、三年制の短期大学と変遷し、これまでに約1800人の検査技師を輩出してきた。



前会長 川上由行先生



信州大学医学部保健学科北校舎（2016）

臨嶺会前会長の川上由行先生と元信州大学医学部附属病院院長の勝山努先生（現丸子中央病院院長）が講演した。川上先生は自分の入学したときは入学試験、学費すべて無料で白衣も支給されたエピソードや昔の写真のスライドに示すと会員たちは身を乗り出して見入った。勝山先生は、臨床検査技師は全診療科と関わりがあり、病院全体が見える職種で病院経営に携わる人が増えている。技師は医療環境が変わってきていることにもっと関心を持つと話した。



講演する勝山努先生



廊下には臨嶺会会報、国家試験の前に文集委員が中心になって作成した卒業文集「太陽」やアルバムが並び、会員らが学生時代を懐かしんだ。懇親会では北海道在住会員、東谷真由美さん提供の富良野メロンを当てるじゃんけん大会をして盛り上がった。

アルバムを懐かしむ



1969年卒



1977年卒



1986年卒



2014年卒



2015年卒



1993年卒



2004年卒

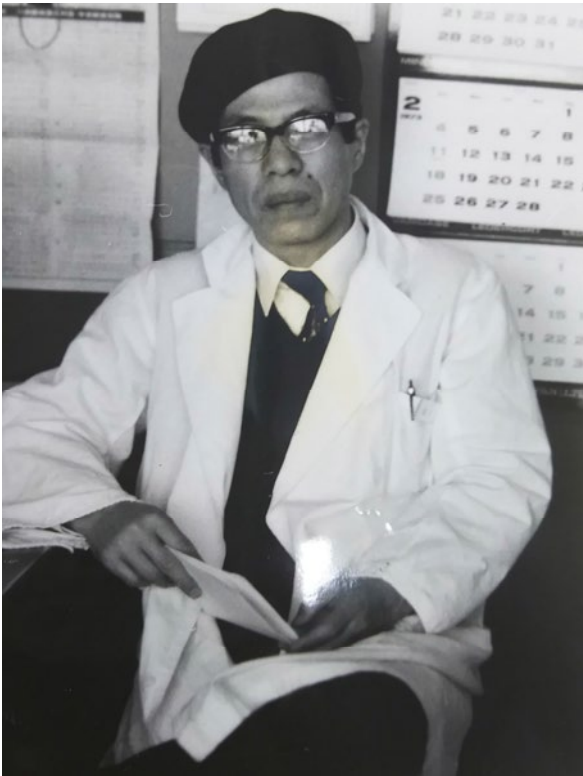


2000年卒

故 田口 八郎 先生

平成28年5月21日逝去

80歳



田口先生と私は、私が医療技術短大に助手として着任する直前、上村先生に連れられて研究室にご挨拶に伺ったときから、田口先生がご退

官された平成13年3月までの二十数年に及ぶおつきあいでした。

田口先生は定年退官される際に臨嶺会会報にご挨拶の文章を寄せてくださいましたが、それによりますと平成13年まで、衛検2〜4回生以外は病理学を教えていらしたとのことでした。私は第一病理学教室から来られて

標本づくりの実習を教えてください。くださった吉田先生のごことはよく覚えているのですが、第二病理学教室の田口先生の病理学については申し訳ないことに曖昧な？の記憶しかありません。不真面目な学生だった証拠でしょうか。けれども医療技術短大の学生たちの間では田口先生の講義は大変わかりやすいとの評判でした。

また先生は医療技術短大部発当初より専任教員として、病理学を通じて学生たちがいかに疾病というものを理解してもらえるか苦心されていました。臨床検査技師が医療のきわめて重要な一部分を担いながらも、それに相当する地位と評価を得られていないことから、それを取り巻く諸問題、検査技

師教育のあり方、などに思いを巡らされていました。

そして臨床検査の質的整備の重要性を感じておられたことが、目指す四年制教育への基盤づくりの原点であったと思います。

田口先生の大学での生活はいつもマイペースで、同じ学科の教員としてゆっくりと向き合ってお話することはめったにありませんでしたが、あの当時は好きだった煙草をくゆらしながら学科会議を進行させていたことや、その会議でしばしば上村先生とバトルを交わされていたこと、でもめがねの奥の目がいつもやさしく笑っていたことは忘れることのない田口先生のお姿です。

(衛検5 寺澤文子)

故丸山雄造先生

平成27年8月21日逝去

85歳



丸山雄造先生の検査技師教育に対するご貢献に御礼申し上げます。

丸山雄造先生は平成27年8月21日に老衰のため85歳でお亡くなりになられました。

私も信州大学で衛生検査技師・臨床検査技師教育を受けた者にとっては、丸山先生には本当にお世話になりました。先生は病理組織検査・診断でお忙しいにもかかわらず、中検実習の病理検査室のご指導はもちろん、衛検学校・臨検学校・医療短大に病理学・臨床病理学等の講師として精力的に講義に来てくださいました。

また、先生はこれらの教育が開始される前から、旧臨床研究棟の衛検学校への改築や専任教員の上村英夫先生ほかの講師陣の人選など、現在の教育の礎を築いていただきました。

さらに先生は、外科病理学（特に胃癌の研究）と細胞診を全国に先駆けて導入され、長野県内で現在活躍している多くの細胞検査士や消化器内科医・消化器外科医・外科病理医を育て指導され、長野県の医療の向上に多大な貢献をされました。

平成28年開催の衛生検査技師学校開設50周年記念同窓会総会にお元氣でご出席いただき良かったです。誠に残念です。

多忙なお仕事にもかかわらず、切手収集・美術展鑑賞など多趣味であられた先生は、今は天国で奥様と一緒に、ゆっくり趣味を楽しんでおられることと思います。どうか安らかにお休みください。

（臨検会会長 奥村伸生）



撮影にこだわる野本先生。学生時代は待てなかつた私たちも懐かしく切なく優しく待つ時間を楽しんでた。

医療短大 11 回生
赤羽 昌子

11月26日〜27日に短11の同級会を浅間温泉「梅の湯」で開き担任の野本先生と17人が参加した。

新しく整備された実験教室や地域保健推進センターなど、母校を小穴先生の案内で見学。「私の席はここだった」「窓から外ばかり見えた」。

医療短大 13 回生
中林 徹雄

しい時間を過ごすことができました。

研修会や学会やらで個人的に同級生に会うことはあったのですが、皆で集まることもなく、この機会に多くの同級生が集まってくれて学生の頃に戻ったような気がしました。

臨床検査技師としてずっと働いている人、すでに別の仕事をしている人など近況を報告し合ったわけですが、年齢が年齢だけに子供の話もやけに多かったです。

さて、この会はカミングホームの制度を利用していただき補助がでたことで格安で行うことができ大変助かり

臨嶺会 50 周年総会が開催されるにあたり、当学年は幹事の怠慢により長年行っていないかった同級会を松本市浅間温泉にて開催することにしました。およそ 20 年ぶりの開催でしたが 11 名の参加があり、野本先生も会に駆けつけてくださり楽

ました。幹事のやる気次第ですが次回はもう少し短いスパンで実施できればと思っています。





保健学科 1 期生
半田 憲誉

ハンカチ王子とマー君が死闘を演じ、シミオロメンの粉雪が大ヒット、チュートリアルがM-1グランプリを制したその年、私たち保健学科1期生は大学生活最後の一年を過ごしていました。

あれから月日が過ぎ卒業10年を迎えた私達は2016年10月、「カミングホーム制度」を利用し同窓会を開催しました。

大安吉日のよき日に松本に集まった同級生は九名。

家庭の事情で参加できない面々の多さにも月日の流れを感じます。

久しぶりの再会に期待と不安が交叉、通された席にかけていたご婦人方を前に名前が出ずに焦るも、別グループだとわかり一安心。実際に顔を合わせれば過ぎた時間がウソのように気持ちは学生時代へ帰ります。

先生方との思い出、辛かった試験（感想で点を稼ぐことに必死）、とある友人の武勇伝の数々：

オシャレな店内、美味しい料理とお酒、イケメン店員さんの効果もあいまって話題は尽きることなく溢れ出します。

改めて大学生活と卒業も仲良くできる友人の素晴らしさを感じた松本の夜でした。



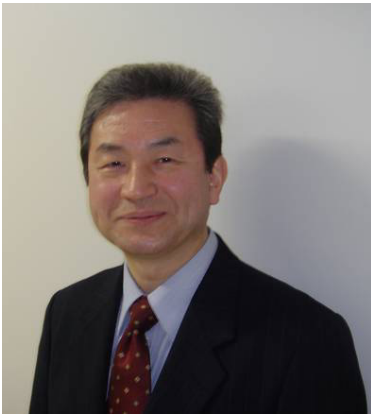
お疲れ様でした

高昌星 先生

2017年3月31日を以って定年退職になるとの通知を信州大学長から頂きました。

1971年に信州大学に入学し、7年に卒業と共に信州大学大学院医学研究科（内科系）の大学院に入学し、1981年に博士課程修了後に第三内科助手に採用され、これまでもずっと信州大学にお世話になって参りました。

早いもので医療技術短期大学部およびその後の保健学科検査技術専攻に異動してから16年になります。この間に大学院博士課程の学生を受け入れ、博士一人、修士七人を輩出し、各々の



院生の論文がピアレビューの英文国際誌に掲載されたのは指導

教員として大きな喜びでした。

また大阪大学の審良教授との共同研究では《Nature》にも掲載され、引用回数が4000を超えました。研究よりも教育には更に力を入れ、講義のスライドは毎年バージョンアップし、最新の知見を加えるよう努力して来ました。保健学科の学生は優秀であるのに、欲がなさ過ぎるのが少々残念で勿体無いと思っています。もっと広く医学・生命科学の分野で飛躍してもらいたいと願っています。

小生の研究を始め、学生実習や院生の研究等で臨嶺会の会員の皆様および臨床検査部の先生方には多大なご協力とご指導をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。臨嶺会の皆様の益々のご発展とご健勝を祈念申し上げます。

ようこそ！

平千明 先生

本年度4月より着任しました、平千明と申します。保健学科2

期生ということで、学生時代にお世話になった先生方と共に、現在は学生を指導する立場として過ごしております。生理検査学の講義・実習、臨床化学と遺伝子検査学の実習を担当し、あっという間の一年でした。昨年まで信州大学医学部附属病院臨床検査部に勤務しておりましたので、ご存知の方もいらっしゃると思います。

さて、私が学生の頃とは校舎が様変わりし、とても過ごしやすい



環境となっています。特に、生理系実習室がとても広くなりベッドが六台もあること（以前は二台分しかスペースがなかったような…）、講義室には冷暖房・プロジェクトター完備（OHPが懐かしい！）、整備された中庭（モダンでおしゃれ）には非常に感動しました。臨嶺会事務局も担当しており、同窓生の皆様と関わる機会も増えますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

近況報告

今回は学生時代の思い出を募集しました。時代は違えど、忙しかった実習や厳しい試験は共通する思い出のようです。

『遙か半世紀昔の思い出』

衛1 湯澤（白木）恵子

勉強嫌いな私の記憶に残るのは、熱心な先生方の講義より、国家試験を受けたその足で、まゆみさんと鈍行に乗って、約一週間東海道中膝栗毛をし、豊橋から飯田線で帰宅した卒業旅行だ。その間就職先から帰宅はまだか？と矢の催促で、学生から社会人への間の東の間のモトリアム。まゆみさんとは、徳島学会出席、続けてゴールデンウィークを使って四国遍路旅も御一緒した。衛検で学んだことは、何処かに残り、思考にヒントを与えてくれる。

次号 松崎（杉山）伸子

『卒業旅行』

衛2 玉木（西沢）陽子

私達は49周年ですね。2回生の皆さんお元気ですか。お久しぶりです。東京での国家試験があり、卒業旅行をしようと、伊豆大島に行きました。明治神宮、下田の熱帯植物園を見て大島へ渡りました。翌日は雨で三原山へは行けず予定通りの船は出なかった思い出があります。



卒業旅行の写真です。1名欠けています。

写真をということでアルバム

を広げびっくり白黒でした。懐かしい写真たくさんありました。今は45種50本のバラを育てつつ草と戦っています。

次号 原（早川）はるか

衛3

次号 坪田（嶋田）芳子

（編集委員会推薦）

『学生時代の思い出』

衛4 酒井（篠原）和子

45年以上の前のかすかな記憶をたどりますと、ぎっしり組まれた授業と先生方の熱心な難しい講義に、ただただついていく忙しい日々だった気がします。薬品でポロポロになった白衣を着ては何度も失敗を繰り返しながらの化学実験。そんな忙しい中でも、友達の家集まり夜遅くまでワイワイとおしゃべりをしたこと

は楽しい思い出です。充実した楽しい日々だったと今思います。

次号 安間（中村）倫子

（編集委員会推薦）

『衛検時代、

45年前を振り返って』

衛5 向山（倉田）やすみ

50周年、本当におめでとうござります。



1975年8月（卒業後3年）の同窓会の写真がありました。懐かしいです。

薄れた記憶の中からまず思い出したのが、古い木造校舎と上村

先生を始め多くの先生方の授業風景です。20名という少人数で、熱意ある先生方の下、講義や実習に当たり前のように臨めたのは、今思えば本当に幸せでした。19名の愛らしい個性の皆さんと一緒に、私の学生生活の中で一番の密な時間を過ごせた事は、今でも大切な思い出となっています。

次号 豊嶋（近藤）和子

『在校時代の思い出…夜遅くまでの実習』

衛6 平林（大槻）勝子

私達の学年は入学時には木造の旧校舎、卒業時は新校舎でした。就学期間が二年間と短く、学ぶ内容は多岐にわたっていて、とても忙しい学生生活でした。特に実習は時間がかかり、夜遅くまでやっていた思い出があります。私は入学当初は松本市郊外の自宅から通学していましたが、実習が遅く

なると最終のバスに間に合わない事が度々でした。そのため信大の近くに部屋を借りました。仲のよい友達もできて楽しい日々でした。



実習風景

次号 小野（小澤）由紀江

『卒後ひっそり』

臨1 佐野（中島）由美子

臨検1回生として、昭和50年に卒業し県外の病院に就職を決めたひとりでした。その後、姓が変わって、二人目の誕生を機に退職しました。臨床検査の世界に戻ることはないかなと思いましたが、健康診断の義務化に伴い、健診業務に携わるようになり、今に至っています。シーズン中は、殆んどお休みがない状態ですが、充実した毎日を楽しんでいます。



息子二人は、循環器内科と消化器外科の臨床医として頑張っています。

います。これからは、旅行を楽しみ、愛犬のチワワに癒され、孫談義に花を咲かせたいと思っています。

七月に夫が定年を迎え、スペイン旅行に行ってきました。国中が世界遺産のようで、長い歴史を感じました。

次号 西村（中島）尚子

（編集委員会推薦）

『青春の地 松本』

臨2 柳澤（平島）美奈子

親元を離れ松本での学生生活、一学年20数名の仲間に出会い、卒業時には全員国家試験合格を掲げての厳しい講義。でも青春してました。臨検祭で演劇発表をやること決め、卒論のため各々別の研究室に入っている忙しい中、劇の練習、小道具・大道具と発表が成功した時には全員感激しました。打ち上げは準備から見守って下

さった先生方も一緒に校内で飲んで歌って笑って泣いて！ 今なお色あせる事のない青春のページです。



田口先生の指揮のもと盛り上がる打ち上げの1シーンです。

次号 東(中山) みさ江

(編集委員会推薦)

『今に継がるもの』

短1 吉澤(西澤) 久美子

(ふるさと居宅介護支援事業所) 夫とともに仙台・東京・福岡と転勤し検査業務からは遥か遠くに暮らしております。ご案内頂いて40年ぶりに臨嶺会総会に出かけ、川上先生の変わらぬお姿、同期三人の男子の一人奥村君や多方面で活躍されておいでのたくさんの卒業生とお会いできて、一気に松本での日々を思い出しました。



40年前の医療短大校舎です。帰宅後アルバムを見て見つけました。なつかしいです。

今の私の仕事の土台はあそこで作って頂いたのだと改めて強く感じました。有難うございました。

次号 岩崎(江尻) 裕子

『在校時代の思い出』

短2 高木(木下) 成美

(株式会社テクニカル
ラボラトリー)

当時、自炊生活をしていたアパートは入居者全員が医療短大で「花の乙女寮」と呼ばれ、裏町にありました。時には短大の先生がたからお声がかかり、皆で近所の居酒屋まで行きおごっていたいただいた事も！授業では聞けない貴重なお話などをゲット！その後、無事に地元静岡県内の病院に就職しましたが、そこで初めて短大のレベルは高かったと気づかされました。



卒業研究で大変お世話になった吉田先生を囲んでメンバー4名と卒業記念写真

良き先生方、良き校友と出会え感謝です。

次号 伊藤(清沢) 和代

(編集委員会推薦)

『今思う事』

短3 井手(桜井) 文字

今年は熊本で地震があり、何もない普通の暮らしがどれだけに難いか心にしみた年だった。私の

住む佐賀県鳥栖は震度三強、家が古い為ここで起きたなら多分倒壊したと思う。

特に頑張った覚えもなく今までのほほんと長い時間が過ぎてしまった。此れからは時間を大事にしないでと思っている。



幸い年齢相応に健康だ、毎日一つでいいから「やったよ!」と言う事をしよう。でもズク無し克服は難しい、年賀状は今年もだめかも 御免なさい。

次号 長尾(代田)美幸

(編集委員会推薦)

『信州を巡って』

短4 重田(加藤)敦子

信大医短の桜の入学式は雪まじり、静岡育ちの私は信州の自然の厳しさを知った。凍り付いた道で自転車のハンドルを取られてすってんころりん、大雪の日に危うく迷子?の悲劇。母の疎開中の思い出が信州と私を結びつけ、検査技師は二年半の経験だったが、医療に携わり諏訪・駒ヶ根・松本・上田・佐久に住んで33年。



2014年2月15日大雪の日

今は故郷の友人や登山好きの中

学恩師が憧れる安曇野に住み、美しい景色と自然の恵みに感謝する日々、体は寒冷地仕様になっっている。

次号 小平 幸子

(編集委員会推薦)

『卒業して35年になります』

短5 河西(百瀬)久美子

(医療法人研成会諏訪湖畔病院)

携帯電話、風呂付アパートはなかったけれど、セブンスイブンがアパートの近くにできた事に喜び、友と浅間温泉に行くことも楽しみのひとつ。合宿生活のような日々でした。勉強は一番苦しかったな。安藤先生の物理は、課題がすべて英語で書かれていたし、野本先生の臨床化学も渡される文献はすべて英語。「こんなの簡単でしょ!」と言われても、訳すことが精一杯。あやふやな内容で講義を受け実験をしていた事も

懐かしい思い出です。



「わー。全然変わらなねー!」「声もおんなじ!」平等に時は流れ、頭には白いものが混じり、笑い皺も増え確実に変化しているの。30数年ぶりの第一声は音同じでした。

次号 林(松沢)とき子

(編集委員会推薦)

『コマクサノハナヒラク』

短6 高見澤（大貫）文江

（桐生厚生総合病院）

コマクサノハナヒラク。昭和54年春、こんな一文の電報を受け取り始まった松本での大学生活。当時下宿のトイレは共同、お風呂は銭湯、電話は10円玉片手に公衆電話。これぞ昭和の大学生（笑）でした！30数年ぶりに卒業文集の“太陽”を開いてみると、手書きの冊子で手作り感満載。懐かしさのあまり読みふけることしばし……。色々思い出します。在校時の一番の思い出・・・特論の一環で冬の北安曇郡美麻村へ野鼠の捕獲に行ったこと。山田喜紹先生の指導の下、山田君と楽しく特論に取り組むことができました！

—卒業して30年以上経った今でも夜の冷たい空気に包まれると、なぜか松本にいた頃を思い出

します。不思議ですね・・・



入学して間もない頃。桜の花の下、みんな初々しい笑顔です！

次号 内山 朋子

（編集委員会推薦）

『私たちのヒストリー』

短7 丸山（榎間）靖子

思えば30？年前、最初の出会いは医短の教室でした。同級生同士で付き合い始め…。その後吉田先

生に仲人になって頂き結婚。二人の子供に恵まれ、今では孫三人のじいじ、ばあばになりました。

出会いの場だった医短には感謝しています。今、仕事は医院に勤めていますがもっと勉強しておけばよかったと思うこの頃です。



三人の孫のうちの二人です。（三人目は生まれただけなので写っていません）

次号 渡辺（宮崎）千穂子

『憧れの信大中検先輩技師』

短8 篠ヶ瀬（黒柳）仲子

一番は何と言っても信大病院中検実習。先輩技師の方々が何と格好よく見えたことでしょう。勝手に休憩に行ってしまった『お弁

当事件』では「迷惑をおかけしました。あの頃、私は多分最も真面目な学生の一人でしたが、学校で教わった基礎が全く臨床とつながっていませんでした。きっと先輩方はそのことを教えようとして下さっていたのだと思います。

実習生を受け入れる側になり、今やっと実習の真の意味がわかったような気がします。



2016年セイシ・オザワ松本フェスティバルにて
私の夏の楽しみ。久しぶりに小澤征爾さんの最高の演奏が聴くことができて大満足!!

次号 山田（曾根原）敦子

『今、楽しいこと』

短9 長澤（中村）睦子

松本で行った所といえれば友達の下宿と「ひまわり」ーカツカシーと鶏生姜焼きがおいしすぎたカシー屋ーが思い浮かぶ程度。元来出不精。趣味「さんぽ」って理解不能の領域だった。ところがその「さんぽ」にはまった。



皇居東御苑にある不思議な井戸です。無料で公開されています。皇居は最強ハワースポットです。さんぽ、おすすめですよ。

時間を作って少し歩く。出先でひと駅歩く。人気スポットを散策

する。橋を渡る。橋をくぐる。ひとりで歩く。路地に入る。水路を

行く。「何故さんぽをするのかーそこに道があるから」最近の私の言葉（笑）。

次号 西井（中村）とき江

（編集委員会推薦）

短10

次号 植田（三宅）良子

（編集委員会推薦）

『生と死』

短11 腰原（奥原）美紀

学生時代の思い出というと、スキー旅行など楽しいことも沢山ありましたが、大変悲しい出来事もありました。それは、クラスメイトを二人も亡くしたことです。みんなで大系線に乗って彼女のお葬式に行ったこと。朝、遅刻ギリギリで教室に飛び込むとみんなが泣いていて…彼の悲報を聞

いた時のショック。今でもふと思いつくことがあります。医短は私にとって、生を学び、また人の死というものに最初に向き合った場所でありました。



1984年4月、入学の記念写真です。みんな、まだ幼く、表情が硬く緊張していますね。私は1年生の頃、生涯で一番太っていました（笑）

次号 原田（河渕）理恵

『おかげさま』

短12 武藤（深尾）晴美

（岐阜ハートセンター）

早いもので、卒業して30年近くが経ちました。私達が生まれた昭和41年、学校も同い年とは。

感慨深いです。私は自宅で一人勉強するのが苦手で、大学時代、試験前は、友達の家で一緒に勉強させてもらってそのまま登校。国試の前には、検査室の片隅にお邪魔して勉強し、同じような友達と、夜、歩いて帰宅……。



1986年初夏 写真学実習で撮影。みんな、今もたくさん笑ってるかな。

皆様のおかげで、無事、検査技師になれました。30年越しの感謝です。

次号 秋山(原)美貴

『検査技師してますー!』

短13 山本(鈴木)エリカ

大学三年間は人生でもっとも濃密で楽しい時でした。誕生会を開催していた友人達と今でもプレゼントを贈り合い、毎年届くのを楽しみにしています。



子供が旅立ってからペットのモルモットが生きがいです。可愛いですよー!

何とか技師になれた私も検査技師として勤める期間が25年ほ

ど、我ながらびっくりです。早期発見・健康維持のお役に立てる仕事につけて良かったなと思う日々です。子供も東京の大学(放射線学科)に行き、蛙の子は蛙。一生の仕事にして欲しいと思います。

次号 犬塚(辻)恵美

『ハンドボール♡時々勉強』

短14 服部 和美

ハンドボールサークルにはまり、金沢に試合に行ったとか、練習後に「うとんぼ」に食事に行ったらとかしか覚えていません。(笑) そんな中でも、金井先生と上村先生の授業はとても緊張しました。「国試落ちたらただの人」と言われ続け…先生方にはご心配をおかけしましたが、無事に今も技師として食品の細菌学的検査に携わっています。レポートやテストで共に苦労

した同級生は長いつきあいなり、あり難い一生の友です。



ママムラのベビーシユ。長野東急にたまに期間限定で販売していると、つい買ってしまいます。懐かしい味です。

次号 姉川(祝)有美子

『日々勉強ですね』

短15 黒田 美奈子

(松波総合病院)

卒業してから25年が過ぎました。ずっと同じ病院で勤務しています。趣味として生け花(小原流)も20年以上続けています。年に一回花展に出品させてもらっています。

TVの『フレバト!!』のように、同じ花材(枝もの、花)でも個人によって見せ方が違うので、奥が深い習い事です。仕事もそうですが、日々勉強の毎日です。



昨年3月に出品した作品です。

次号 鈴木(小池)満里子

(編集委員会推薦)

『学生時代』

短16 大庭(鈴木)良枝

卒業して25年。月日が経つのは本当に早いです。学生時代はスキーマにテニスに飲み会と、勉強以外にも忙しく充実した日々を送っていたように思います。授業中いつもウトウトしていた私が無事に卒業し、今、検査技師として働く

事が出来るのはノートを貸してくれた友達や指導して下さった先生方のお陰です。(この場を借りてお礼を。笑)



一二年生時、クラスのみんなで梅池高原へスキーに行った時のものです。前列に野本先生がいらっしゃいます。

子供が大学に進学するようになり、今更ながら親のありがたみと大変さを痛感しています。
次号 久留島(寺澤) 幸路

『実習の思い出』

短17 井藤(鈴木) 真奈美

(トヨタ記念病院)

学生時代の思い出といえば、実習でよくスケッチをして、前赤芽球と骨髓芽球の違いをつまぐ表現できず困った事が印象に残っています。また、生化や血液の実習のときに助手の先生方が手伝ってくれて母親のような存在でした。

今では一年があつという間に過ぎますが、学生時代は一年一年が充実していて今より長く感じられました。今ではどれも楽しい思い出です。

次号 小笠原(時野) 直美

『金沢から松本まで』

短18 高田(武田) 智恵子

金沢市から松本市まで地図上では近く感じますが、北アルプスのため意外と時間がかかります。

帰省するときは、大糸線や北陸本線を利用し、五時間半以上かかっています。今は北陸新幹線ができて、車では上信越自動車道や東海北陸道、安房峠道路ができて松本が近くなりました。松本から三時間半です。皆様ぜひ金沢へ遊びに来てください。



次号 山本(吉田) 雅子

『Carpe diem.』

短19 堀田(前田) 奈津江

(市立大町総合病院)

(健診センター)

お世辞にも勤勉な学生とは言えなかった私。過密な医短の課程の合間、スキー、ヨット、バイトに明け暮れ、一年中真っ黒に日焼けしていました。他愛もない友達との時間、追い込まれて必死にやった勉強、今しかできないこと、やりたいことを最大限にやった貴重な三年間でした。やはり勉強以外ですが、実習室で先生や仲間と作ったおでんや焼き芋、野本先生のお宅にお邪魔して一緒に企画したスキー旅行は忘れられない思い出です。

スキーももちろん楽しかったのですが、旅行の前後に友人と計画や準備のために野本先生のお宅にお邪魔して、ちょっと特別な時間を過ごさせていただいたの

次号 中野 理恵



も良い思い出です。

野本先生と柵池高原にスキー旅行に行った時の写真です。

『学生時代に得たもの』

短20 久保田 佳代

卒業以来、臨床検査技師としては少し特殊な「眼科」という世界で仕事をしているので、検査技師としての技術を活かす機会は多くはありません。ただ、学生時代のハードな実習とレポートで身についた「考察する力」は、今も大いに役に立っていると自負しています。



学生時代の友人達と、仙仁温泉にて

そして、学生時代に得たステキな友人達との時間も、日々溜まっ

ていくストレスの解消のためは欠かせない大切なものです。

次号 小林 路子

『ハト事件(?)』

短21 丸山(濱) 尚枝

覚えていらっしゃいますか？あまりのインパクトと説得力に、ハトが苦手になったのは多分私だけではないと思います(笑)。

あの頃はとにかく必死で勉強した。気になっていましたが、研究室をノックするといつも気さくに質問に答え、楽しいお話を聞かせて下さった先生方、実習や勉強のみならずいつも母の様に気遣って下さった助手の先生方…温かい環境の中で勉強させて頂いた時間はとても幸せだったと思います。

次号 村越(中村) 好美

(編集委員会推薦)

『在校時代の思い出』

短22 佐藤(関口) 香苗

(北アルプス医療センター

あづみ病院)

卒業して早いもので18年。学生時代の靡げな記憶を辿ると…三年間はあっという間だった気がします。昼間は講義や実習があり、実習は時には夜遅くまで伸びたこともありました。夕方からは賄い付きの近所のレストランでアルバイト。懐かしく思い出されます。学生時代、自分が技師に向いているのか悩んだ時期もありましたが、今日まで実に沢山の人が支えられ検査技師を続けることが出来ている毎日に幸せを感じています。

次号 石川(竹村) 由紀子

短23

次号 羽田 育代

(編集委員会推薦)

『開校50周年おめでとうございます』

短24 林（堀内） 沙織

（医療法人さわやか会

安藤整形外科松代クリニック）

卒業してから早いものでもう16年が経ちました。

学生時代は、普段の講義はもちろん、実習、レポート、テストも数多く、とても大変で徹夜になることも度々でした。その中でも動物の解剖が私は苦手でした。一年生での解剖は、大きなカエルを机に叩きつけ失神、そして解剖…。カエルが大嫌いな私はカエルには一切触れることなく、筋肉だけのささみ状態になってから実験に加わっていました（苦笑）。
ラットの解剖はもう少し手を出していました、どちらも悲鳴をあげながら行っていた事を覚えています。

私は現在、整形外科で検査技師

として働いています。育児と家事、そして仕事に追われていますが子供達と過ごす時間を楽しみに頑張っています。



次号 榎部（森崎） 陽子

（編集委員会推薦）

『学生時代を支えてくれた

思い出の味』

短25 太田（齋藤） 香織

在校時代、料理が不得意な私にとって、まかないにつきのバイトは助かったことをよく憶えています。メニューの中から一つ選び、持ち帰れたので夕食や翌日のお

弁当にしていました。よく頼んだのは生姜焼きや唐揚げで、食欲旺盛な頃のガッツリメニューです。外食では、盛よしのカニクリームコロッケやマサムラのシユークリーム、ガレーシの洋食などです。次に松本に行く機会があれば、思い出の味を探してみたいと思っています。



2015年11月、松本での同窓会です。藤田先生、小穴先生ともにお元気そうで、和やかな会でした。

次号 北澤（星野） 睦美

短26

次号 新井 香織

（編集委員会推薦）

『仲間との出会い』

短27 星野（小林） 麻衣子

（中澤ワイメンズライフ

クリニック）

入学してまもなく意気投合した八人組。いつも誰かの家に集まっては、朝まで語り合ったものです。「りんでん」で食べたカップラーメン。頭を悩ませた臨床化学のレポート。厳しかった微生物学の試験。重かった臨床検査法提要。共に笑い、励まし合いながら過ごしてきました。

現在でも定期的集まり、近況報告や当時の思い出話に花が咲きます。皆、結婚・出産し、なんと子どもは合計17人！いつもありがとう。これからもよろしくね。そんな最高の出逢いに感謝を

次号 藤牧（山田）格子



思い出の地、松本 浅間温泉にて



我が家は息子3人です。

こめて開校50周年おめでとうございませう。

『在校時代の思い出』

短28 鬼頭（松山）早紀

専門分野の講義、特に血液と臨床化学には非常に苦労したことを今でもよく覚えています。なので卒業後、血液・化学・輸血検査担当になったときには驚愕しました。

結婚を期に八年前に退職後、主人の仕事の関係で度々転勤を繰り返し今度はスペインへ行くことになりました。決して勤勉とはいえず国家試験にも苦戦しましたが、スペイン語の勉強頑張っています。

次号 西村（忠地）真利子

『感謝』

短29 高井（塩澤）愛奈

（岐阜市民病院）

学生時代はテスト終わりにBBQや焼き芋をしたり、スキー部の大会や合宿で毎日の様

にグレンデに通った事が良い思い出です。



同期と年一回の海外旅行でトルコを旅した際の一枚です。定年したら、また世界遺産を見に行く約束、今から楽しみですよ！

現在は、育休中で慣れない子育てに奮闘しています。今回、出産というイベントを経て改めて感じたのは、親友や周囲の方々への感謝でした。助けが必要な時、必ず誰かが手を差し伸べ、励まし、優しい言葉をかけてくれました。

次は自分が手を差し伸べられる存在でありたいと願っています。

次号 竹澤（上條）由夏

『素敵な仲間たち』

保1 井上（山本）紗綾佳

（伊那中央病院）

今年は卒後10年！日々忙しく、学生時代が遠い昔のように感じます。

学生時代を振り返って思い出すこと・・・

飲み代を賭けて国試模試に臨んだこと（成績上位だとおごってもらえる 笑）。絶叫系が苦手なW君をジェットコースターに乗せたこと（恐怖のあまり途中から声も出せず）。一君を拉致して、横浜へ旅行したこと（一君院生時代）。

卒業後も毎年集まる友人達と、楽しく過ごした学生時代でした

☆



江の島
カメラマンは拉致されたー君でした。

次号 三澤（篠原）幸

『過去の実習を振り返って』

保2 中田 裕美

卒業後、松本の病院に就職し九年が経過しました。私は、細菌検査、心臓超音波検査を担当しています。在学時の思い出では、特に、細菌検査学実習が今も心に残っています。毎回レポート提出に追われ、また川上先生の試験が難し

く、深く学習した講義でした。しかし、現在の細菌検査業務の基礎を学べた良い機会であったとも感じています。今後も勉強会・学会に積極的に出席し、常に勉強する姿勢を大切にしていきたいと思っています。

次号 滝脇 正貴

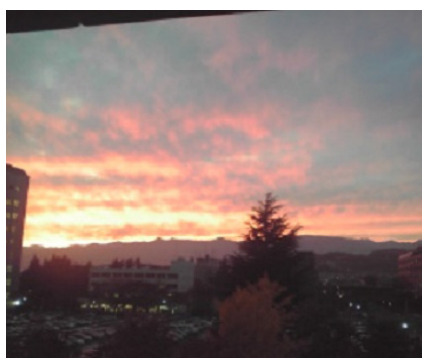
（編集委員会推薦）

『りんご』

保3 菊川 未希

私達も卒業して10年近く経ちますが、信州大学で過ごした日々はまるで昨日の事の様に感じます。在学時代思い出深いのは、保健学科の校舎の一階にあった購買のりんごで、授業の合間や放課後に友人達とお菓子を食べながら過ごした事です。お気に入りの「ブラックサンダー」を買ったり、クリームいっぱい牛乳パンを食べたり、とても懐かしく思い

ます。校舎は新しくなってしまいました。あの牛乳パン今でもあるのでしょいか…。



実習で遅くなったある日、校舎の4階からふと外を見ると、とてもキレイな夕日だったので思わず撮影しました。

次号 加藤 亮介

（編集委員会推薦）

『勉強は…』

保4 住友（林）奈津美

（諏訪マタニティークリニック）
在学中は医学部バドミントン部に所属し、毎日のようにバドミ

ントンをしていました。実習との両立、部の運営等、大変なこともありましたが、その経験が今の職場でも活かしていると思います。

現在はもうすぐ二歳になる娘を育てながら、胚培養士として不妊に悩む方のお手伝いをさせていただいてます。また、社会人のバドミントンクラブにも所属し、幅広いレベル・年齢層の中でバドミントンを楽しんでいます。



次号 長谷山（中村）きらら

『学生時代を思い返して』

保5 桃井 真理恵

私は学生時代、沢山の人にお世話になりました。今思い返してもお手数をお掛けした申し訳なさ

と、感謝の気持ちでいっぱいです。

入学時は知り合いもいない環境に不安がありました。友人ができて、学校で話したり、食事や旅行に出掛けたりと多くの思い出ができました。長野市の花火大会では、その綺麗さに感動しましたし、夏には憧れのバイクの免許にも挑戦しました。今では中古バイクを入手して、たまの街乗りで気分転換をしています。



友人と行った長野市の花火大会の写真です

次号 齊藤（青山）知枝

（編集委員会推薦）

『芙岳寮での日々』

保6 山崎 駿介

在校時代の思い出という事で私が思い浮かんだのは芙岳寮での日々でした。芙岳寮は医学部なら誰でも入れる寮であり、先輩、同期、後輩たちと共に過ごし、遊び、勉強に励んだ時間はかけがえない思い出となりました。



現在、建て替えを計画しているようですが、新しく生まれ変わっても、入寮された方が素敵な思い出を作られる事を期待しています。

次号 望月 彩花

（編集委員会推薦）

『羽山研のクリスマスパーティー』

保7 浜 直幸

（諏訪中央病院）

僕が今でも思い出に残っているのは羽山研主催で太田研・川上研・小穴研・亀子研合同クリスマスパーティーを開いたことです。



クリスマスパーティーの写真 「いままでで一番豪華な会になったよ」と羽山先生も喜んでいました。

研究の合間に会議室でメインのビーフシチューを準備し親戚のつてを借りて七面鳥も準備しました。ほかの研究室のみんなもシチューの手伝いや当日にケーキやピザ、サラダなど一品ずつ用

意してくれたのでとても賑やかなパーティーになりました。みんなの笑顔が今でもよい思い出です。



羽山研卒論発表会の記念写真
いろいろなポーズで撮らせてもらいました。羽山先生の左が自分です

次号 井上 卓

『現場に出かける日々』

保8 松尾 睦紀

長野県の雄大な自然に囲まれて過ごした四年間。学科内や部活

動を通して、今後につながる人脈を築くことができました。



改修前の北校舎の超音波実習室

また、様々な授業の中で臨床検査技師としての基礎を幅広く学びました。なかでも超音波実習で学んだ解剖の知識やプローブ操作は、現在超音波検査に携わる中で、大きく役立っていることを臨床の場に出てから強く感じます。先生方の熱心なご指導に感謝し、これからも経験を積んでいきたいと思います。

次号 飯村 稜子

『隣の人』

保9 田沼 奈津紀

昨年、松本に遊びに行く際、特急しなのでたまたま隣に座ったおじいさん。どちらから々と尋ねられ私が答えると、なんとお互い栃木の近くの駅から来ていることが判明。

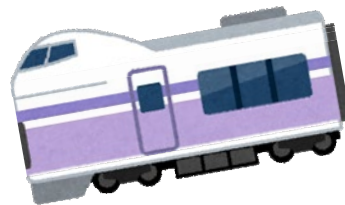


さらに、そのおじいさんも信大OBだというからびっくりりやう嬉しいやら。間もなく駅に着いたためそこでお別れしましたが、信

大生でよかったなあとしみじみ感じた出会いでした。

次号 中澤 美帆

(編集委員会推薦)



『病院実習とダイエット』

保10 森田 温

私の学部生時代の一番の思い出は四年時に行ったダイエットです。私は生理検査のオスキーで軽い気持ちで腹部エコーの被検者を引き受け、その場にいた全員の前で高度脂肪肝であることを言い渡されました。そしてダイ

エットを覚悟し、病院実習と並行して食事制限、筋力トレーニングを行いました。開始して一ヶ月で肝臓の高輝度エコーは見られなくなり、病院実習期間の約三ヶ月で体脂肪率は12%、体重は40キロ減りました。



左は病院実習前、右は現在

次号 小林 隆樹

■カミングホーム

平成29年の該当は次のとおりです。

- 卒業10年：保健学科2期生
(平成20年3月卒)
- 卒業20年：短大22回生
(平成10年3月卒)
- 卒業30年：短大12回生
(昭和63年3月卒)
- 卒業40年：短大2回生
(昭和53年3月卒)
- 卒業50年：衛検1回生
(昭和43年3月卒)

臨領会として補助、協力(例えば構内見学など)をいたしますので、同級会を開催し旧交を温めてください。

すでにカミングホームの該当年が過ぎていてこれから同級会を開催する学年につきましても、補助をしますのでご連絡ください。

■会費未納の方へ

臨領会は皆様の会費により運営されております。会費未納の方には平成25年までは未納金額のお知らせを同封していましたが、現在は同封いたしておりません。未納の方は左記振込先への納入にご協力ください。また、カミングホームなどの際に納入のお願いをさせていただきます。

振込先：ゆうちょ銀行
口座番号：0052000120187
加入者名：「臨領会」

振込用紙の通信欄に衛・臨・短回生、会員番号を必ず記載してください。

なお、保健学科卒業生は保健学科同窓会に納入ください。

■卒業後の

■証明書申し込み方法

卒業証明書、成績証明書等の申込みは、郵送および窓口のみの受付となります。

詳細は「信州大学医学部」ホームページの「卒業生の方へ」の「卒業証明書発行について」をご覧ください。

■事務局への連絡方法

変更が生じた場合は、必ず事務局へご連絡くださいますようお願いいたします。

方法はメール、ハガキ、封書いずれでも結構です。

- 改姓
- 住所
- 勤務先 等

卒業生の進路

H29年3月卒業・修了

平成29年2月1日現在
()内人数

保健学科 11期生 37名

➤ 就職：27名

信州大学医学部附属病院(1)、松本市医師会医療センター(1)、諏訪赤十字病院(1)、伊那中央病院(1)、健和会病院(1)、長野赤十字病院(1)、JA 長野厚生連長野松代病院(2)、JA 長野厚生連佐久総合病院(1)、長野市民病院(1)、長野市役所(1)、山梨大学医学部附属病院(1)、市立甲府病院(1)、甲府共立病院(1)、小田原市立病院(1)、前橋赤十字病院(1)、JA 愛知厚生連安城厚生病院(1)、刈谷豊田総合病院(1)、名古屋記念病院(1)、国際セントラルクリニック(1)、浜松赤十字病院(1)、国立病院機構東海ブロック(1)、金沢医科大学病院(2)、福井赤十字病院(1)、公益財団法人会田病院(1)、和歌山赤十字病院(1)

➤ 大学院進学：6名

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻(博士前期課程)(6)

➤ その他進学：1名

北里大学保健衛生専門学院臨床工学専攻科(1)

大学院医学系研究科
博士前期課程保健学専攻
修了生 5名

(内社会人 2名)

➤ 就職：3名

信州大学医学部附属病院(1)、JA 愛知厚生連安城厚生病院(1)、横浜市立大学附属病院(1)

■会員番号について

宛名ラベルに5桁の会員番号が記載されています。番号は次のようになっております。なお、最初に会員となったときの番号が継続されています。

例) 3 2 1 4 0

- 1：衛生検査技師学校
- 2：臨床検査技師学校
- 3：医療技術短期大学部
- 4：保健学科
- 5：博士前期課程
- 6：博士後期課程

卒業回(期)

学年内の通し番号

- 2月 8日(月) 接遇対策セミナー (3年生対象、臨嶺会として支援)
- 3月21日(月) 信大松本地区卒業式・学位記授与式
- 4月 4日(月) 信大入学式
- 11月30日(水) 就職・進学支援セミナー (2・3年生対象、臨嶺会として支援)

講師： 阿部 雅仁さん (栄研化学株式会社 保1期生)
 山内 淳平さん (名古屋第一赤十字病院 保4期生)
 鷺野 恵一さん (長野赤十字病院 大学院博士前期課程修了生)
 櫻井 博文さん (長野市民病院臨床検査科科长)



編集後記

50歳を過ぎて急に同級会が増えた。人ってそれぞれの生き方があるんだ、と胸に「ストン」と落ちる年代。

20代30代の頃は、自分だけがうまくいっていない、と同級生に会いたくない時が私にもあった。毎日目新しいことが起きて、昔の友だちにわざわざ会うのも面倒な気がした。

50代になって、どうやっても消せない過去(笑)と残りの時間について初めて考える時、共に歩んだ同級生が急に愛おしくなる。

誰が成功しているとか、誰がしあわせだとか、あひらぎった考えがだんだん消えて、ひとりひとり違うんだと心から思える人生後半。

「ラインやってる。」同級会での会話。家では子どもにサポートしてもらっているのに自分でやらなきゃならない。そんな時間にかけて何とかやってみる。

15人のライングループができた。雪の松本風景やペットの猫の写真を送り合う。

同級生に会って、私も明日から頑張ろうと素直に思う。

(赤羽)

臨嶺会会報
第38号

臨嶺会会長	奥村 伸生
事務局	小穴 こそ枝
	樋口 由美子
	平 千明
編集委員会	赤羽 昌子
	川崎 健治
	武市 尚也
	山崎 春奈
印刷	株式会社成進社印刷

臨嶺会事務局

〒390-8621 松本市旭3-1-1
 信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻
 Tel. 0263-37-2387 (ダイヤルイン)
 Fax. 0263-37-2370 (保健学科事務部)
 e-mail kensa@shinshu-u.ac.jp
 臨嶺会ホームページ
<http://www.mhoken.jp/rinreikai/>